

研究調査報告書

教科名（特別の教科 道徳）

項 目		書 名 新しい道徳 （発行者名 東書）
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要 領の教科の目 標との関わり		<p>〈道徳的諸価値についての理解を深めさせる工夫〉</p> <p>○読み物教材と組み合わせてある「出会う・ふれ合う」では、読み物で学んだ価値を活動を通すことで、価値理解を深めることができる。</p> <p>〈自己の生き方への考えを深めさせる工夫〉</p> <p>○「問題を見つけて考える」では、言葉を少なくし、写真や絵で考えることができる。〈道徳性を育成するための工夫〉</p> <p>○「つながる・広がる」では、実生活や他の教科でも学んだ事が生かせるように工夫されている。</p>
特 色	内 容	<p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉</p> <p>○いじめ問題について、いくつかの教材を組み合わせているため、複数時間にわたり深く考えさせることができる。</p> <p>○全学年に情報モラルに関する教材が取り入れられている。〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <p>○学年の発達段階にあった資料が多く、学習の課題が明確で分かりやすい。資料に関しての発問と自分自身に振り返る発問の組み合わせで深く考えることができる。〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <p>○中学年以上に問題解決的な資料がある。（「問題を見つけて考える」ページ）児童に分かりやすい短い言葉で投げかけ、問題意識を深められるようになっている。</p>
	資 料	<p>○児童になじみのあるキャラクターやマンガを取り入れている。また、これまでの学習で親しみのある教材が残されている。</p> <p>○各学年の巻末にある「ふろく」では、美しい写真や様々な資料があり、他教科や実生活との関連を意識した学習ができ、調べ学習にも活用できる。</p>
	表 記 ・ 表 現	<p>○少し太めの教科書体で児童の発達段階に応じて、文字の大きさや行間が工夫されていて読みやすい。</p> <p>○一年間で学ぶことが、目次の他に内容項目ごとに分けられているので、児童が見通しを持って学習することができる。色やマークが分かりやすい。</p> <p>○教材のタイトルとして、学習のテーマが児童に分かりやすい言葉で示してある。</p>
総 括		<p>○巻頭のオリエンテーションのページでは、児童に学習のイメージがつかみやすいよう示されている。また、「学習のふり返り」では、長期休業前にも自分の考えや、感じたことを記入したり、来年度の自分へのメッセージを記入したりと保護者の目にも学習の様子が分かりやすくなっている。組み合わせ教材「いじめのない世界へ」では、とびらページ・直接的教材・間接的教材と3つの要素でじっくりと取り組むことができる。</p>

研究調査報告書

教科名（特別の教科 道徳）

項目	書名 かがやけみらい（発行者名 学図）
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領の教科の目 標との関わり	<p>〈道徳的諸価値についての理解を深めさせる工夫〉</p> <p>○「読みもの」と「活動」の分冊となっている。読みものの冊子で主題やねらいを確かめ、活動の冊子で考えを深めて、道徳的価値について理解することができる。</p> <p>〈自己の生き方への考えを深めさせる工夫〉</p> <p>○活動冊子の左側に、道徳的価値を見つけ、広げるページが用意されており、自己の生き方への考えを深めていけるような工夫が見られる。</p> <p>〈道徳性を育成するための工夫〉</p> <p>○よく考えさせる教材文や活動が用意されている。考えることを通して、道徳性を育成しようとしている。</p>
特色	<p>内容</p> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉</p> <p>○防災・安全教育、キャリア教育、人権・福祉教育、伝統文化・国際教育など、現代的な課題が計画的に割り振られ、教材化されている。</p> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <p>○発達段階に即した問題解決的な学習、体験的な学習が配置されている。他教科の学習時期や学校行事、時節等に合わせた配置をしている。</p> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <p>○活動の冊子に掲載されている発問で、議論する視点が分かる。多面的、多角的に考え、議論することで、道徳性を育成しようとする工夫が見られる。</p>
	<p>資料</p> <p>○「読みもの」の冊子では、教材文を通してねらいや主題を確かめ、「活動」の冊子では、発問などを通して考えを深める構成となっている。</p> <p>○教材の特性に合わせて、問題解決的な扱いにしたり、体験的な学習を取り入れた扱いにしたりして、学習意欲を喚起させるよう工夫している。</p> <p>○「活動」の冊子は、学活や朝や帰りの会などでも活用でき、事後の指導に生かせる。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○教科書体で表記されており、発達段階に応じた文字の大きさとなるよう配慮されている。学年配当漢字には全てルビが付けられ、配当外漢字はその都度ルビが付けられ、読みの負担が重くならないよう配慮している。</p> <p>○教材文とともに、主題やキーワードが示されており、内容項目との関連が一覧で分かるようになっている。</p>
総括	<p>○読み物と活動を分冊にしているところが特徴である。読み物を読み、考えを深める活動を通して「考え、議論する道徳」にすることができる。活動の冊子の中では、「考えよう」「見つめよう」「やってみよう」「かいてみよう」など、多様な学びが展開されるようになっている。その活動の内容も、多面的、多角的に考えられるものに工夫されており、考え、話し合うことで、道徳性を育成することができる。活動の左側のページは、道徳的価値を見つけ、道徳的実践意欲と態度を育てようとする工夫が見られる。</p>

研究調査報告書

教科名（特別の教科 道徳）

項目	書名 はばたこう明日へ （発行者名 教出）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>〈道徳的諸価値についての理解を深めさせる工夫〉</p> <p>○「学びの手引き」では、教材本文に対する問い、道徳的価値に対する問い、今後の行動への示唆など、深く考えられるようになっている。</p> <p>〈自己の生き方への考えを深めさせる工夫〉</p> <p>○偉人やスポーツ選手など多数取り上げ、各学年に計画的に配置することで、様々な考え方や生き方にふれ、自分の生き方を振り返り、深く考えさせている。</p> <p>〈道徳性を育成するための工夫〉</p> <p>○課題解決に向けたロールプレイや考察で考えを深める「ジャンプ」、行動化を図るうえで欠かせない「モラルスキルトレーニング」など、全学年に配置され、道徳的な実践場面での言動も考えられるようにしている。</p>
特色	<p>内容</p> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉</p> <p>○食育、消費者教育、法教育、福祉に関する教育、防災教育など、計画的に各学年に割り振り教材化されている。（スキルのページとして取り上げられているものもある。）</p> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <p>○生命尊重は各学年に計画的に配置され、低学年で3教材ずつ取り入れている。いじめをなくす教材も発達段階に応じて考えられている。内容項目ごとに導入を配置し、主題に迫れるように「問いかけ」が書かれている。</p> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <p>○「学びの手引き」を活用し、授業者の教材観やクラスの実態に合わせて発問を取捨選択できるようになっている。問題解決的な授業や考え議論する授業が展開しやすい構成となっている。</p>
	<p>資料</p> <p>○内容項目ごとに、書き込める部分があり、授業のアンケートとして、使うこともできる。</p> <p>○低学年の挿絵が立体的な紙芝居風のイラストだったり、刺繍やフェルトなどの印象的なものだったり、温かみを感じるものが多い。</p> <p>○充実した定番教材に加え、偉人やスポーツ選手など「人に学ぶ」資料も新しく加わっている。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○目次の主題にもマークがつけられ、子ども達にとってもどんな内容項目か分かりやすい表示がある。「生命を尊重する態度の育成」「いじめをなくす態度の育成」「情報モラルを守る態度の育成」というテーマを重視していることが分かる。</p> <p>○配色やレイアウトを工夫し、児童にとって学びやすい紙面になっている。</p>
総括	<p>○道徳の時間のオリエンテーションのページが、全学年の教科書の冒頭についている。そして、巻末の「1年間の学習を振り返ろう」では、次の学年への橋渡しができるようにになっている。また、学びの手引きが教材文の終わりに表示されているのが大きな特徴で、発問を取捨選択しながら授業を組み立てることができ、教科書全体を通して、考え議論する道徳を意識して作成されている。イラストや写真などレイアウトがダイナミックなビジュアル面を充実させた教材や、児童にとって興味関心が高い偉人やスポーツ選手を扱った教材を多く取り上げている。</p>

研究調査報告書

教科名（特別の教科 道徳）

項目	書名 きみがいちばんひかるとき （発行者名 光村）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>〈道徳的諸価値についての理解を深めさせる工夫〉</p> <p>○「考えよう」のコーナーでは、学習のめあてをはっきりさせ、課題や価値について主体的に学べるよう3つの問いが示されている。</p> <p>〈自己の生き方への考えを深めさせる工夫〉</p> <p>○学びの記録のページがあり、無理のない分量で1時間ごとに学んだことや自分の成長が残せるようになっている。</p> <p>〈道徳性を育成するための工夫〉</p> <p>○学習した後も、友達と話し合ってみたくなるような教材文が多く見られる。「いじめ」を考えるコラムや「情報モラル」などについても分かりやすく考えられるようになっている。</p>
特色	<p>内容</p> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉</p> <p>○食育、消費者教育、法教育、福祉に関する教育、防災教育など、計画的に各学年に割り振り教材化されている。多様な見方や考え方があつことをふまえ、自分と異なる考えや立場についても理解を深められるように配慮されている。</p> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <p>○「つなげよう」のコーナーで、今までの学習や他の教科、生活の中で考えて欲しいことなどが示してあり、内容項目ごとの価値の深まりを考えさせている。読書教材も多く紹介されている。</p> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <p>○2年生以上の各学年の冒頭には、主体的な学びを促す「授業開き」のページがあり、子ども達にも分かりやすい。教材も多様で、多面的・多角的な学びができるように工夫されている。</p>
	<p>資料</p> <p>○目次や「学びの記録」が、4月～5月、6月～9月、10月～12月、1月～3月というように、学習する時期によってひとまとまりに考えられている。</p> <p>○子ども達には興味深いマンガやイラストなどの活用もある。印象的な絵本の引用や、写真なども効果的に活用されている。</p> <p>○各学年に付録のページがあり、身近なスポーツ選手などからのメッセージもある。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○キャラクターが、問いかける会話の形で書かれていて、児童に親しみやすい。</p> <p>○文字の書体は、書き文字に近い教科書体活字になっている。また、文字の大きさも、発達段階や教材の内容によって配慮されている。</p>
総括	<p>○全学年の1ページ目に詩があり、「みんな生きてる みんなで生きてる」という言葉が、全学年を通した共通のテーマのようになっている。また、各学年に「～のこつ」という、よりよい対人関係づくりの「こつ」が紹介され、円滑なコミュニケーションがとれるように、言葉や話し方を大切に扱っている。「学びの記録」を通して、教師は児童の成長を長期的に見ることができ、児童自身も自分の成長や心の変容を振り返ることができる。「つなげよう」では、道徳の時間の学びが、他教科や生活に生かせるように配慮されている。</p>

研究調査報告書

教科名（特別の教科 道徳）

項目	書名 生きる力（発行者名 日文）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>〈道徳的諸価値についての理解を深めさせる工夫〉</p> <p>○キャラクターを登場させ、内容項目を意識して学習に取り組むことができるようなメッセージを語らせている。道徳的価値について深く考えさせられるように「心のベンチ」が設定されている。</p> <p>〈自己の生き方への考えを深めさせる工夫〉</p> <p>○「見つめよう、生かそう」には、よりよく生きるために大切なことを考えさせる発問が示されている。</p> <p>〈道徳性を育成するための工夫〉</p> <p>○「学習の手引き」に動作化や役割演技などの具体的な活動例、問題解決的な学習につながる発問が示されており、道徳性を育成する活動の参考にすることができる。</p>
特色	<p>内容</p> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉</p> <p>○安全なくらし、環境、国際理解など現代的課題について全学年を通して、発達段階に応じた内容の教材が複数取り上げられている。</p> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <p>○「道徳のとびら」「道徳の学び方」を設け、学習の見通しをもちやすいように工夫されている。「心のベンチ」では、より深く考えねらいに迫ることができるような多彩な資料でページが構成されている。</p> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <p>○「道徳の学び方」には、「気づく」「考える・深める」「見つめる・生かす」といった問題解決的な学習のステップが明示されている。</p>
	<p>資料</p> <p>○人物の表情豊かな明るくきれいな挿絵や、体験的な学習の活動場面の写真などがふんだんに提示されている。</p> <p>○児童が身近に感じられる地域の特色を生かした地域教材が各学年にあり、興味をもって学習できるよう工夫されている。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○教材と内容項目の関係が、目次と内容項目別教材一覧表の中で、分かりやすく色分けされている。</p> <p>○一覧表には、ページ、テーマ、手引きなどの欄があり、指導する際により活用しやすくなるよう工夫されている。</p>
総括	<p>○児童が主体的に考えられる問題解決的な学習方法や、体験を生かして学ぶ体験的な活動など、多様な指導方法を扱っている。導入からまとめまで、児童の思考の流れに沿った発問が設定されており、児童の考えを引き出し、議論が活発に展開されるように工夫されている。各学年に別冊の「道徳ノート」が付いていて、子どもたちにとっての成長の記録となるとともに、指導や評価に活用することができる。また、保護者記入欄もあり、家庭との連携を大切にしている。</p>

研究調査報告書

教科名（特別の教科 道徳）

項目	書名 ゆたかなこころ（発行者名 光文）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>〈道徳的諸価値についての理解を深めさせる工夫〉</p> <p>○教材文に、道徳的価値へ方向付けとなるようなタイトルとメッセージが添えられていて、児童が問題意識を持って学習できるように工夫されている。</p> <p>〈自己の生き方への考えを深めさせる工夫〉</p> <p>○どんな自分になりたいかを考えさせるようなオリエンテーションの時間の工夫が見られる。各教材に対して問い掛けがあり、その中で、「自分の…」「あなたの…」という表現が多く見られ、自分との関わりで考えさせるよう工夫されている。</p> <p>〈道徳性を育成するための工夫〉</p> <p>○学習の最後に、「広げる」の活動を取り入れ、「どうしたらよいか考えましょう」「考え実行しましょう」などの問いかけをして、道徳の時間に学んだことを実生活へ生かしていこうとする意欲を引き出すための工夫が見られる。</p>
特色	<p>内容</p> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉</p> <p>○パソコンやスマートフォンを扱った情報モラルのページが1年生から発達段階に応じて問題意識をもたせながら指導できるように工夫されている。</p> <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <p>○各学年で、内容項目が同じ教材を続けて扱うようにすることで、重点主題としてよりねらいを達成することができるように工夫されている。</p> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <p>○「児童と一緒に考えよう」と呼びかけるキャラクターが教材文のページ下に登場して児童にさまざまな問いかけをすることで、多面的、多角的な考え方ができるように工夫されている。</p>
	<p>資料</p> <p>○「ことばのたからもの」に、先人の名言や名句が紹介されていて、教材との関連を図りながら活用することで考えを深めたり、語彙を広めたりすることができる。</p> <p>○巻末に「学びの足あと」があり、授業の振り返りを書き留めることで、成長を実感したり新たな課題や目標を見つけたりすることができるように工夫されている。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○内容項目の4つの視点を、児童の発達段階に応じた言葉と全学年共通のマークを使って分かりやすく示している。</p> <p>○巻末の「内容項目別教材一覧」は、色分けすることで、一目で内容項目と教材文との関係が分かるように工夫されている。</p>
総括	<p>○オリエンテーションのページでは、道徳科のめあてや学習の流れが発達段階に応じて分かりやすく提示されていて、深く考える学びができる。言語活動や体験的な活動を通して考える学習活動を充実させ、より主体的・対話的で深い学びができるよう工夫されている。「学びの足あと」では、毎時間自己評価することで、授業での気づきの振り返りができるようにしている。また、児童の成長を把握し、評価の手だてに活用することができる。</p>

研究調査報告書

教科名（特別の教科 道徳）

項目	書名 みんなの道徳（発行者名 学研）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>〈道徳的諸価値についての理解を深めさせる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特定の価値観を押しつけないよう、主題名などは入れず、児童が自ら主体的に課題を見つけ、解決する資質や能力を培うことを重視している。 ○自分の考えを深め整理して学習できるよう、書き込めるページが多数ある。 <p>〈自己の生き方への考えを深めさせる工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先人や現在活躍している人物の考え方や生き方を多く取り上げ、自己の生き方への考えを深めている。 ○「つなげよう」では、教材で学習したことを、自分の生活や生き方につなげている。 <p>〈道徳性を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳的な問題の構造を踏まえた場面設定のある教材文が多数あり、道徳性が育成できるよう工夫されている。
特色	<p>内容</p> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルのページがあり、発達段階に応じた教材が取り上げられている。 ○生命の尊さを様々な観点から考えられる教材が3連続で学べるようになっている。 <p>〈発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じて、児童が自ら考え、意見を交わし、考えを深め、視野を広げられるよう「学び方のページ」を設け、ねらいを達成させる工夫がある。 <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材文の最後の「考えよう」では児童が自己を見つめるきっかけとなるような投げかけや、話し合いを深められるような2つの問いが提案されている。 ○有意義な話し合いができるよう自分の考えを書き込める欄が用意されている。
	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真や挿絵が大きく掲載され、視覚的にも学習への意欲をもたせている。 ○表紙の裏のページには、見開きの写真に詩が掲載され学習への関心を高めている。 ○巻末に学びを振り返るページがあり、1年間の自分の成長を感じることができる。
	<p>表記・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年ごとにテーマがあり、内容項目にはタイトルがつけられている。 ○目次に「教科書に使われているマーク」があり、内容項目を視点ごとにわかりやすく説明してあり、関心をもたせている。 ○活字が大きく読みやすい。また、挿絵や写真も豊富に掲載されている。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の問題意識を尊重し、自ら主体的に課題を見つけ、解決する資質や能力を培うことを重視した教材の構成、展開にしている。4種類の「学び方のページ」を設け、自己の生き方への考えを深めたり、多様な学習過程を提案し、多面的・多角的に考えたりすることができるようになっている。教材文の最後の「考えよう」では、児童が自己を見つめ、話し合いを深められるような問いが提案されている。

研究調査報告書

教科名（特別の教科 道徳）

項目	書名 小学生の道徳 （発行者名 廣あかつき）
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要 領の教科の目 標との関わり	<p>〈道徳的諸価値についての理解を深めさせる工夫〉</p> <p>○道徳ノートに自分の考えや話し合ったこと、学習の振り返りを書くことで自己を見つめ直すことができ、道徳的価値理解をより深めることができる。</p> <p>〈自己の生き方への考えを深めさせる工夫〉</p> <p>○道徳ノートは内容項目ごとに記入できるようになっており、教材文と関連させながら、児童が考えたことや感じたことを書き込み、自己の生き方について考えを深めることができる。</p> <p>〈道徳性を育成するための工夫〉</p> <p>○道徳的価値に関わる人物の生き方の教材を取り上げることで興味や関心をもたせ、児童の道徳性を高める工夫がある。</p>
特色	<p>内容</p> <p>〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉</p> <p>○安全教育や情報教育について、学年の発達段階に応じて、身近な危険から身を守る対処の仕方や著作権などが具体的に書かれている。</p> <p>〈発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫〉</p> <p>○発達段階に即したねらいを達成させるために「学習の道すじ」を設けている。</p> <p>○児童が学習の見通しをもちながら取り組めるよう、オリエンテーションのページ「道徳の時間はこんな時間」を設け、発達段階に即して道徳の時間の学び方、向き合い方がよくわかるよう書かれている。</p> <p>〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉</p> <p>○教材文の最後の「考えよう、話し合おう」では、課題といくつかの発問が書いてあり、学習の流れや何について話し合えばよいのかわかるように工夫している。</p> <p>○道徳ノートに書くことで自分の考えをより明確にでき、充実した議論ができる。</p>
	<p>資料</p> <p>○教科書が道徳ノートと対応していて、道徳ノートのページが明記されている。</p> <p>○道徳ノートの最後に、自己評価ができるページがあり、学習の積み重ねを確認できるよう工夫されている。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○道徳ノートは全学年が「自分を見つめて」「人とともに」「みんなとともに」「命を感じて」の言葉で内容項目を表現し、道徳的価値に迫るためのタイトルがつけられている。</p>
総括	<p>○教材と道徳ノートの2冊セットで構成されている。道徳ノートは書き込むスペースが広く、学習のまとめとして使えるだけでなく、児童の心の変容や学習の深まりを見取ったり、把握したりすることができる。また、自分自身の成長の記録となる。教材文の最後の「考えよう、話し合おう」では教材のねらいに迫る発問例などが書いてあり、児童が見通しをもって学習を進めることができる。</p>